令和８年度 阿久比町教育委員会
事務点検・評価報告書
（令和７年度実施事務事業）

令和８年９月

阿久比町教育委員会

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第２６条第１項の規定により、各教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に提出・公表することが求められています。

この目的は、教育委員会が点検・評価を行い、その結果を公表することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていくというものです。

また、この点検・評価に当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとされております。

本報告書は、令和７年度の教育委員会の事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、学識経験者の意見を付してまとめたものです。

令和８年９月

阿久比町教育委員会

（参考）地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

第二十六条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

２　教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たつては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目　　次

Ⅰ　教育委員会の活動状況

１　教育委員会の構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４
２　教育委員会会議の開催状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５
３　総合教育会議の開催状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５
４　教育委員会後援名義使用の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５
５　学校訪問の実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５
６　教育委員会委員のその他の主な活動（会議・行事等への参加）・・・・・　６

Ⅱ　教育委員会施策の自己点検・評価

●学校教育関係

１　幼保小中一貫教育の推進 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8-11
２　いじめ・不登校対策の充実 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12-13
３　学校施設及び設備の整備・改修等の推進 ・・・・・・・・・・・・・・・14-17
４　安全安心な学校給食センター運営 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・18-19

●社会教育関係

５　魅力ある生涯学習機会の提供・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０-２２
６　多様な学習機会の提供　　・・・ ・・・・・・・・・・・・・・・・２３-２５
７　魅力ある図書館づくりの推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６-２８
８　スポーツ施設及び設備の整備等の推進・・・・・・・・・・・・・・・・２９-３０
９　多様なスポーツ及びイベント機会の提供・・・・・・・・・・・・・・・３１-３４

Ⅲ　学識経験者の意見

教育委員会事務評価委員会報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３６-４０

Ⅰ　　教育委員会の活動状況

１　教育委員会の構成

令和７年４月１日～令和７年９月３０日

役　　職	委　員　名	任　　期	備　考
教　育　長	竹 内　　淳	令和5年4月1日～令和8年3月31日	
教　育　長 職務代理者	稲葉　清仁	令和3年10月1日～令和7年9月30日	
教 育 委 員	竹内　賢司	令和4年10月1日～令和8年9月30日	
教 育 委 員	竹内比名子	令和5年10月1日～令和9年9月30日	
教 育 委 員	古川　千歩	令和6年10月1日～令和10年9月30日	

令和７年１０月１日～令和８年３月３１日

役　　職	委　員　名	任　　期	備考
教　育　長	竹 内　　淳	令和5年4月1日～令和8年3月31日	
教　育　長 職務代理者	竹内　賢司	令和4年10月1日～令和8年9月30日	
教 育 委 員	竹内比名子	令和5年10月1日～令和9年9月30日	
教 育 委 員	古川　千歩	令和6年10月1日～令和10年9月30日	
教 育 委 員	河合　通夫	令和7年10月1日～令和11年9月30日	

２　教育委員会会議の開催状況

下記のとおり定例及び臨時教育委員会会議を開催し、議案４３件の審議を行った。

実施期間　令和７年４月　から　令和８年３月　まで

定 例 会　１２回　　臨 時 会　３回

３　総合教育会議の開催状況

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により、平成２７年度に町長と教育委員会で構成する「総合教育会議」が設置された。令和７年度は令和７年１２月１８日（木）に阿久比町役場会議室１０１で開催し、下記の議題について検討した。

議　　題　「学校給食費について」

「業務量管理・健康確保措置実施計画について」

４　教育委員会後援名義使用の状況

事務局による書類審査を行った。また、記載内容に疑義のあったものについては、事務局より申請者に改めて聴き取りを行い、可否を決定した。

申 請 数　６１件　　許　　可　５８件　　不 許 可　３件

５　学校訪問の実施状況

学校参観という形で、教育委員や教育長、教育委員会の職員が学校へ出向き、授業等を視察した。その後、学校・園幹部と、授業の改善、家庭における生活習慣の形成、いじめ・不登校への対応、特別な支援を要する園児・児童・生徒への対応、学校の安全体制の整備、部活動などについてより良い学校・園運営のための意見交換を行った。

開　催　日	学　校　名	備　　考
６月　３日（火）	阿久比中学校	
６月２７日（金）	草木小学校	
９月１１日（木）	南部小学校	
９月２５日（木）	ほくぶ幼稚園	
９月３０日（火）	英比小学校	
１０月１７日（金）	東部小学校	

６　教育委員会委員のその他の主な活動（会議・行事等への参加）

令和７年度は下記の行事に出席した。

・各小中学校入学式及び卒業式、幼稚園入園式及び卒園式
・教職員辞令伝達式
・愛知県市町村教育委員会連合会定期総会
・知多地方教育事務協議会
・知多地方教育委員研修会
・阿久比町教育支援委員会
・いじめ等問題対策連絡協議会
・青少年健全育成推進大会
・阿久比スポーツフェスティバルレクリエーション大会
・書き初め大会（表彰式）
・凧あげ大会
・二十歳の祝典

など

Ⅱ　　教育委員会施策の自己点検・評価

施策名	1　幼保小中一貫教育の推進

（担当:学校教育課　学校教育係）

【施策の概要】

○　１５歳の「めざす生徒像」を定め、幼保小中の職員(保育士・教諭)、保護者のみならず、地域や行政職員を加え町内全ての大人が子どもたちと関わり、阿久比町全体が学び舎となって、子どもを育てることをめざしている。２０年が経過した第６期として、「欠落なき教育」「落差なき教育」「段差なき教育」の理念は継承しつつ、子どもたちの実態を把握し未来に向けて必要な力をつけるために、今日的課題に対して活動部を再編し、新たな取組を推進した。

【令和７年度の取組状況】

○　事務局が中心となって、課題や今後の方針を把握立案し、次年度に向けて組織再編成を行った。

○　「啓発連携部」「幼保小中接続部」は、啓発の更なる普及や縦のつながりを円滑にできるよう推進をした。

○　「体力向上推進部」「外国語活動部」は、講師による訪問や研修を実施し、教職員への理解と技能を推進した。

＜各部会の取組＞

①　啓発連携部

継続した部会であり、持続可能な取組を無理なく伝承していくことを目標に取り組んだ。幼保小中高一斉あいさつ運動、親子ふれあいキャンペーン、学びウィークやノーメディアデーといったこれまで継続している活動を持続可能な形として体現すべく取り組んだ。また、「土曜学習」や学校支援ボランティアなど、引き続き地域の方々と協働して取り組んだ。

幼保小中高一斉あいさつ運動では、各校の実情に合わせ、朝だけではなく、休み時間や下校時に活動するなどの工夫をした。阿久比高校の生徒と小・中学生が一緒になって阿久比駅で活動した。



【防災無線での啓発(録音)】



【高校生を含めたあいさつ運動】

今年度も、防災行政無線で啓発を呼びかけ、中学生が小学校に出向いて校門で活動した取組を行った。

学びウィークは、中学校のテスト週間に合わせ、各種学習コンクールとタイアップして児童の意欲の向上を図り、学習習慣を身に付けさせるだけでなく、保護者の家庭学習への意識を高めることにつなげた。

令和８年度に、ＧＩＧＡスクール構想第２期を迎えるにあたり、取組の一つであるノ

ーメディアデーについて、自宅でのＩＣＴ機器を活用した学習が増えたこともあり継続検討を行った。健康面の配慮や家族との会話時間を増やす取組として、令和８年度も継続に至った。

②　幼保小中接続部

幼稚園や保育園から中学校までを見通して、子どもも教職員もスムーズな接続ができるようにする目的は変わらないが、活動を精選することで持続可能な取組として実施した。

１学期には、小学校でのスムーズなスタートが切れるように、入学当初３週間に自由遊びを取り入れたカリキュラムを実施した。また、幼保小連絡会、小中連絡会では、卒園・小学校卒業の子どもたちの元担任が小学校・中学校でそれぞれ授業参観を行い、現担任と情報交換を行った。



【小学校教員の保育園研修】

夏休みには、幼稚園・保育園体験研修として、小中学校の初任者および中堅教諭資質向上研修該当者に絞り、異校種である幼稚園・保育園で１日体験研修を行い、園・学校の教育のつながりを再確認することができた。



【交流で楽しむ年長児たち】

２学期には、幼保、小中の接続の不安を解消する一つの取組として、町一斉幼保小交流会、先輩の話を聞く会を引き続き実施した。幼保小交流会は例年同様「あぐい教育週間」の一環として１０月最終週に実施した。各校の１年児童が年長園児をもてなす企画を工夫して交流できた。

これまで園および小学校カリキュラムとしての位置づけから、町内園在園児のみを対象としていたが、町外園在園児にも拡大することとし、広報にて案内、周知した。（実際には町外園からの参加はなかった。）



【先輩の話を聞く６年児童】

先輩の話を聞く会では、３年生徒が母校を訪れて、中学校の様子を６年児童に説明した。タブレット端末を利用した質問集約、説明時に実物投影機や電子黒板を活用する等、ＩＣＴ利用を前提とした取組も定着している。

３学期には、小学校・中学校入学説明会を行い、保護者への説明会中や説明会後に授業参観の時間を設ける等、小学校・中学校の授業のイメージをもたせることができた。

園と小中学校の教職員のつながりを更に深められるよう、次年度に向けての計画を検討していった。

③　体力向上推進部

昨年度、課題となった握力やボール投げの記録向上に向け、まずは授業で取り扱えるものをと考え、「３６＋１の基本動作」を作成した。これは、基本動作の３つ「平衡系動作」「移動系動作」「操作系動作」で整理し、理解しやすくするために図で示した。そして、まずは幼児期から取り組む必要があると考え、



【なわとび　講習】

中学校教職員が講師となり、園の教職員に対し研修を行い、周知を図った。

幼稚園・保育園は「つくろう！　体力向上の根っこ」をテーマに、リトミック、自重を支える運動、遊具遊び、ボールや手具を使った統合遊びなど、楽しみながら体幹をつくる活動を取り入れた。

小学校は「伸ばそう！　体力向上の幹」、中学校は「広げよう！　体力向上の枝葉」をテーマに、町体育部会を中心とした体育授業の変革にも取り組んだ。また、今年度より実施したスポーツ庁が推奨する「幼少期に身につけさせたい３６＋１の基本動作」の視点を取り入れ、鉄棒の単元に取り組む際には、コンビネーション遊具や雲梯（うんてい）、登り棒などの固定遊具を使ってウォーミングアップを行った。児童からの感想では、鉄棒の授業が「短い」と感じたり、「怖い」が「楽しい」に変わったりと、「もっとやりたい」に変容した。そんな笑顔がたくさん咲いた鉄棒の授業となった。



【36+1 の基本動作を行った後の鉄棒の様子】

④　外国語活動部

中学校卒業時の英語力の到達目標である英語検定３級程度を目指し、幼稚園・保育園の段階から「英語が好き・楽しい」と感じられる子どもの育成に取り組んできた。各園・校では、この目標を踏まえ、具体的な活動内容を工夫しながら実践を進めている。

保育園・幼稚園では、「まずは親しむこと」を目的に、幼児向け英語動画の視聴や英語の絵本の設置、英語に限らず世界各国のことについての紹介の掲示をした。更に、幼保から英語に親しむことが大切だと考え、ＡＬＴを園に派遣し、遊びを通してネイティブな英語と触れ合う機会を設定した。世界各国の紹介では、外国にルーツをもつ園児の国について紹介する園もあり、園児だけでなく保護者に向けての取組にもなった。また、英語教育に力を入れる私立園の協力をもとに公立園との交流も行った。



【英語の絵本コーナー】



【ＡＬＴとのＴＴによる授業】

小学校１・２年では、余剰時間等を用いてＡＬＴとのＴＴによる英語に慣れ親しむ授業を行った。担当校では授業公開も行い、各園・小学校から多くの教職員も参観し研修した。動画の視聴や英語遊び等を通じて、子どもたちは目を輝かせながら英語を聞いたり・話したりしていた。日頃から慣れ親しむ「色」を取り上げ意欲的に活動していた。

中学校は、日頃の外国語の授業でＡＬＴとの授業を行うとともに、授業外での取組として季節ごとの掲示物や英語の Word サーチなど生徒の興味をひく工夫を行い、関心をもたせることに努めた。



【英語での読み聞かせ】

園・学校共通の取組として、学期に１回１週間程度「イングリッシュ・ウイーク」を実施し、児童・生徒による英語の校内

放送、ＡＬＴや担任による英語絵本の読み聞かせ、クラスルームイングリッシュによる朝の会・帰りの会などの実施や英語の歌の練習など、各園・校において子どもが英語に親しむための取組を行った。子どもが英語に慣れ親しむ中で、

「Good morning!（おはよう）」「See you!（またね）」

といった英会話が自然と口に出てくる子どももいた。



【海外学生と触れ合う児童】

また、小中学校においては、町の国際交流事業として、日本福祉大学との包括連携協定を利用して、日本福祉大学の留学生の国際交流（異文化交流）を行った。留学生は英語圏以外も多く、日本語も堪能であることから、英語を特化とした活動とはならなかったものの、特定のクラスだけでなく、多くの交流の機会を設定することで低学年の児童も積極的に参加することができた。

＜まとめ誌の製作＞

これまで各期のまとめには全国発表やまとめの冊子を作成してきた。コロナ禍において交流を含めた活動ができなかったため、大きな取組成果を形として残すことができなかった。再び活動を多く行えるようになり、また２０年の節目ということもあり、成果を「１年のあゆみ」のまとめ誌として製作した。



【写真で振り返る１年のあゆみ】

活字による報告･指導案やカリキュラムなどを取りまとめた従来の冊子とはコンセプトを変え､写真で活動の様子を分かりやすく紹介するものとした。更に、今年度はデータでも活用できるように、冊子ではなく、まとめ誌のデータとして保管をした。

各園・学校に配付するとともに、行政視察など外部への紹介資料としても活用できるようにした。

【自己評価・今後の課題】

◇　子どもたちのめざす姿の実現を目標に、際限なく時間をかけて取り組むのではなく、今日の実態（教員の働き方改革など）に沿った「限られた時間で最大限の成果を出す」ことに努めた。具体的には、事務局が中心となって課題や今後の方針を把握立案し、運営しやすくするために次年度に向けて組織再編成を行ったり、各部が目標を踏まえた具体的な取組を実施したりするための方針を示すことができた。

◇　令和８年度の教研式 NRT 中学校３年生英語の結果は、知多半島内の中学校の中でも上位であった。しかし、昨年度の２年生時の結果と比較すると偏差値は 0.1 ポイント減少しており、特に「聞く」「話す」「読む」「書く」の４観点のうち「話す」の項目での低下が見られた。

◇　新設した部会で、園との取組を密に行えたことが大きな成果である。教職員に対して研修を行い、理解を深めたことで園児に還元できたと考える。今後は、時代に合った内容にしていくこと、現在の幼保小中の課題となっていることを優先すべき事案として検討し、幼保小中一貫で指導・支援の在り方を共有していく必要がある。

施策名	２　いじめ・不登校対策の充実

（担当：学校教育課　学校教育係）

【施策の概要】

○　児童生徒が安心して学習やその他の活動に取り組むことができるよう、いじめの未然防止及び早期発見、早期対応に努める。

○　教育委員会、教育相談センター及び小中学校が連携し、不登校児童・生徒及び保護者に対する相談・支援体制を確立し、安心できる居場所づくりや、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて社会的に自立する支援をする。

【令和７年度の取組状況】

○　各学校において「学校いじめ防止基本方針」を策定し、阿久比町いじめ等問題対策連絡協議会を令和７年６月１３日及び令和８年２月５日に開催した。小中学校関係者、町教育・民生・人権等に関する委員等がいじめ・不登校等について協議・情報交換をした。

○　心理資格をもつ教育相談員４名が、児童生徒や保護者の相談を行い、関係者と連携を図り、不安の解消や問題解決の支援を行った。また町スクールカウンセラー２名及び県スクールカウンセラー１名が、児童生徒との面談、保護者の抱える不安、教職員の生徒指導上の悩みなどに対して、公認心理師・臨床心理士として専門的な助言・援助活動を行った。関係者と連携して問題の早期発見に努め、対応した。

○　専任のスクールソーシャルワーカー１名が、社会福祉士として福祉面のアプローチを充実し、より迅速できめ細かな支援を行った。学校巡回、家庭訪問、ケース会議など幅広く支援を行った。学校を基盤に、児童生徒や保護者が生活で抱えている問題について、家庭などへの働きかけや、学校外の専門機関につなぐことを通して問題解決の援助を行った。

○　学校教育指導員が教育支援センター「こすもす」で、さまざまな理由で学校に気持ちが向かない児童生徒に対し、生活の自立と集団生活への適応を支援した。安心できる「心の居場所」をつくり、温かい人間関係を培った。

○　阿久比中学校の校内教育支援センター「オアシス」の運営を補強するための支援員を１名配置し、不登校の兆候がみられる生徒が、学校内で安心して学習したり相談支援を受けることができた。

いじめ件数

	年度	Ｒ３	Ｒ４	Ｒ５	Ｒ６	Ｒ７
小学校	件　数	１０	２９	２３	１４	３４
	解消数	１０	２８	１７	９	２４
中学校	件　数	８４	５２	７４	７７	６９
	解消数	８０	４３	６６	５６	３３

不登校（欠席３０日以上）人数（％は全体に占める割合）

年　度	Ｒ３	Ｒ４	Ｒ５	Ｒ６	Ｒ７
小学校	２５ (1.1%)	３４ (1.5%)	４７ (2.1%)	４１ (1.9%)	４２ (2.1%)
中学校	６４ (7.5%)	８４ (8.9%)	８２ (8.2%)	７７ (7.2%)	６４ (5.9%)
総　計	８９ (2.9%)	１１８ (3.7%)	１２９ (4.0%)	１１８ (3.7%)	１０６ (3.4%)

不登校（１，０００人当たりの不登校児童生徒数）

年度		Ｒ３	Ｒ４	Ｒ５	Ｒ６	Ｒ７
小学校	阿久比町	11.2	15.3	21.2	19.2	20.5
	全国	13.0	17.0	21.4	23.0	―
中学校	阿久比町	74.9	89.0	82.0	72.2	59.0
	全国	50.0	59.8	67.1	67.9	―

【自己評価・今後の課題】

◇　教育相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーがそれぞれのもつ情報を必要な範囲で共有し、より適切な支援につなげた。

◇　スクールソーシャルワーカーが学校を巡回し、教員と情報共有を図りながら役割を分担し、円滑な支援及び教員の負担軽減につなげた。また行政、教育現場の連絡調整役を担うことで、迅速に対応した。

◇　学校と教育相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーが同じ方針で活動するために、打ち合わせや報告の必要があるが、十分な時間が確保できない場合があり、工夫が必要である。小学校から中学校への引継ぎや、特別支援教育指導員との連携も推進する。

◇　小学校のいじめ件数が増加し、中学校でのいじめ件数や小中学校における不登校児童生徒数が高止まり傾向にあり、支援は依然として必要性を増している。

◇　長期的に安定して人材を確保するための待遇、個人情報の取り扱い及び町情報端末のアクセス権限等について課題を解決していく。

施策名	3　学校施設及び設備の整備・改修等の推進

（担当：学校教育課　庶務係）

【施策の概要】

○　施設について

町内の４小学校１中学校の校舎は、築年数４０年から５０年経過しているものが多数あり、老朽化による問題が多発している。児童生徒の安全を第一に考え、必要な整備や改修工事を順次行っている。また、阿久比中学校の生徒数の増加に対応すべく、施設整備を行っている。

○　設備・ＩＣＴ機器について

子どもたちが授業を受けるための安全で快適な教育環境を整備するため、教室や体育館への空調機器設置やＩＣＴ機器の導入をはじめ、必要な設備や備品等の整備を進めている。

【工事・事業等における令和７年度の取組状況】

○　小学校校舎等改修工事・修繕（主なもの）

１　東部小学校仮設校舎解体工事　32,670,000 円

学級減に伴い、リース契約期間が満了となる仮設校舎の解体を実施

２　英比小学校特別教室空調設置工事　28,677,700 円（【国】補助額 8,039,000 円）

図工室、家庭科室、視聴覚室、理科室、理科室２の５教室に空調設備を整備

３　英比小学校防火シャッター改修工事　20,977,000円（【国】補助額7,850,000円）

南西校舎の防火シャッター改修工事を実施

４　南部小学校北校舎 2･3 階サッシ改修工事　48,400,000 円（【国】補助額 15,593,000 円）

老朽化のため、サッシ改修工事を実施

５　南部小学校配膳室等空調設置工事　3,355,000 円

配膳室の空調設備の新設工事及び休養室、相談室の空調設備の取替工事を実施





（写真：南部小学校北校舎２・３階サッシ改修工事（左）
南部小学校配膳室等空調設置工事（右））

○　中学校校舎等改修工事・修繕（主なもの）

１　阿久比中学校職員室拡張改修工事　16,170,000 円

学級数増に伴う教職員数増に対応するため、職員室拡張改修工事を実施

２　阿久比中学校体育館空調設備設置工事　37,730,000 円

熱中症対策等のため、体育館に空調設備を整備

３　阿久比中学校体育館空調設備電気工事　11,297,000 円

体育館の空調設備整備に伴う電気工事を実施



（写真：阿久比中学校体育館空調設備設置工事）

【ＩＣＴ機器等導入に関する令和７年度の取組状況】

○　生徒数教職員数増加に伴うＩＣＴ機器購入（主なもの）

１　小中学校 ICT 機器移設等業務委託　385,000 円

阿久比中学校の学級数増に対応するため、電子黒板、タブレット充電保管庫を東部小学校、英比小学校、草木小学校から移設

○　ＩＣＴ教育推進に関するもの

１　ＩＣＴ支援業務委託料　（小）9,806,500 円　（中）2,838,000 円

各校のＩＣＴ教育の操作サポートを行うため、ICT 業者へ委託

２　授業用支援システム（コラボノート）使用料　（小）990,000 円　（中）247,500 円

教育現場での ICT 機器活用の幅を広げるため、交流・協働学習支援ツールを導入

【自己評価・今後の課題】

◇　今後の工事計画について

学校施設の老朽化に伴い、工事及び修繕を必要とする箇所が増加しており、今後も多額の工事費を要することが予想される。

令和５年度に学校施設長寿命化計画（表１）を改訂したが、計画として記載した５年間以降も施設の経年劣化に加え、２０年後には各校校舎が築８０年を迎える。今後児童・生徒数、学級数が減少することも考慮し、まずは東部小学校、英比小学校から建て替え計画等を検討していく。

児童生徒の学習環境整備が最優先ではあるが、町の厳しい財政状況や学校整備基金の積立額等を考慮した上で工事を実施する必要がある。

◇　大規模改修工事について

記録的猛暑への対策として、普通教室、特別教室及び体育館への空調機器の整備を進めている（表２）。令和７年度は英比小学校特別教室への空調設置が完了し、全学校への設置が完了した。普通教室においては最も古い機器は設置から約１０年が経過しているため、清掃業務を委託し、不具合が生じた機器の修繕を行い、児童生徒が安心・安全に学校生活が送れるよう、学習環境の整備に努めている。令和８年度には、全小学校の体育館への空調機器の設置が完了する見込みである。配膳室への空調機器の設置については、令和７年度に南部小学校への設置が完了したが、他の小中学校についても検討していく必要がある。

各校に設置されているプールについても老朽化が進んでおり、スポーツ村交流センター内プールを活用して、令和７年度は南部小学校の授業をした。令和８年度には南部小学校に加え草木小学校も実施していく。他の小中学校においてもどのように実施していくか、学校と協議しながら計画をしていく。

学校校舎棟におけるトイレ改修工事については乾式化・洋式化工事が完了しているが、体育館のトイレについては複数校で未着手の状態である。長寿命化計画（表１）のとおり、令和８年度に阿久比中学校で改修工事を実施するために令和７年度に設計委託した。大規模災害発生時には町民の避難所として活用されることが想定されることから、草木、南部小学校においても順次進めていきたいと考えている。

◇　ＧＩＧＡスクール構想について

ＧＩＧＡスクール構想に関しては、環境整備のみではなく、ＩＣＴ教育を推進する取り組みも進めている。学校にＩＣＴ支援員を派遣したり、授業用支援ツールを導入したりすることで、授業でのタブレット端末の活用を促進し、児童生徒の学びの充実だけでなく、教員のＩＣＴ活用指導力の向上にも繋がっていると考えている。タブレット端末は学校での活用のみならず、家庭学習でも活用できるように持ち帰りを推進し、学びを止めない教育環境の実現を目指している。また、持ち帰り学習を実施するにあたり、令和７年度にタブレット用クッションバックを購入した。

令和７年度は文部科学省が主導する「第２期ＧＩＧＡスクール構想（通称：ＮＥＸＴ　Ｇ

ＩＧＡ)」が開始され、ネットワーク環境の分析等を実施した。令和８年度には児童生徒用タブレット端末の導入を予定している。

（表１）学校施設長寿命化計画（個別施設計画）における今後５年間の実施計画

今　後　５　年　間　の　実　施　計　画　（案）

事業名称＼年度		2024 R6 学校名	2025 R7 学校名	2026 R8 学校名	2027 R9 学校名	2028 R10 学校名
施設整備	新増築事業					
	改築事業					
	長寿命化改修					
	大規模改造（老朽）					
	大規模改造（トイレ）			阿久比中学校（体育館） 【トイレ改修工事】 金　13,852千円	草木小学校（屋内運動場） 【トイレ改修工事】 金　13,852千円	
	大規模改造（空調）	東部小学校 （北・南校舎特別教室） 【空調設置工事】 金　20,350千円 草木小学校 （北・南校舎特別教室） 【空調設置工事】 金　17,930千円	英比小学校 （南西校舎特別教室） 【空調設置工事】 金　23,662千円			
	部位修繕（防災機能強化含む）	南部小学校（北校舎） 【１階サッシ改修工事】 金　24,100千円 南部小学校（南東校舎） 【防火シャッター改修工事】 金　3,128千円	英比小学校（南西校舎） 【防火シャッター改修工事】 金　8,030千円 南部小学校（北校舎） 【２・３階サッシ改修工事】 金　49,896千円 南部小学校（北校舎） 【エレベータ新設工事】 金　59,400千円	英比小学校（北校舎） 【屋上防水工事】 金　23,550千円 南部小学校（北校舎） 【屋上防水工事】 金　29,418千円 阿久比中学校（北校舎） 【外壁改修工事】 金　76,274千円	東部小学校（北校舎） 【屋上防水工事】 金　25,757千円 東部小学校（南校舎） 【防火シャッター改修工事】 金　7,500千円 南部小学校（南東校舎） 【屋上防水工事】 金　11,458千円 阿久比中学校（体育館） 【屋上防水工事】 金　15,969千円	英比小学校（北校舎） 【外壁改修工事】 金　34,316千円 南部小学校（北校舎） 【外壁改修工事】 金　42,866千円

（表２）各校空調設備設置状況　　（○ 設置済　×未設置）

＼	東部小	英比小	草木小	南部小	阿中
普通教室	○	○	○	○	○
その他特別教室等	○	○	○	○	○
配膳室	×	×	×	○	×
体育館	× (R8 工事中)	× (R8 工事中)	× (R8 工事中)	× (R8 工事中)	○

施策名	4　安全安心な学校給食センター運営

（担当：学校教育課　給食係）

【施策の概要】

○　学校給食センター「ＡＧＵＭＯＧＵ」において、学校給食衛生管理基準に適合した衛生管理のもと、安全安心で栄養バランスのとれたおいしい給食を提供する。

○　アレルギー対応除去食(令和３年９月提供開始)について、卵・乳のアレルギーを有する園児、児童、生徒を対象に安全性を確保し提供する。

【令和７年度の取組状況】

○　給食調理及び配送等委託業務を締結している業者と連携を図り、小学校・中学校に１８９回、幼稚園に１８９回、保育園に２２５回安全安心で栄養バランスのとれた給食を提供した。

○　アレルギー対応除去食提供については、提供日時を学校・園に周知し、保護者との面談、調理・配送シミュレーションを行った。保護者との面談は毎月実施し、園児、児童、生徒の現状を確認。保護者の思いを尊重し、家庭での試みも聞き取り、アレルギー症状の改善に向けての相談に応じている。実績は、年間回数５０回、年間食数（卵）２１７食、同（乳）１１４食の提供を行った。アレルギー対応委員会については要綱を作成しつつ、委員構成の検討を始めている。

○　学校給食センター　５周年記念事業

令和７年度２学期で、給食センターは５周年を迎えた。運用開始当時（令和２年度２学期）は、新型コロナ感染症拡大防止のため、竣工式と園児・児童・生徒を対象にしたオープン記念給食の提供（令和２年９月１日）のみであった。

そこで、学校給食センター「ＡＧＵＭＯＧＵ」５周年記念企画「あぐもぐツアー」を開催した。

開催日　７月２３日（水）小中学生の親子２８名

２４日（木）未就学児の親子３２名　２日間で、２２組６０名が参加

内容

小中学生の親子を対象　調理の見学、野菜洗い体験、給食調理室ツアー、試食会

未就学児の親子を対象　調理の見学、パネル de 給食調理室ツアー、試食会

＜参加者アンケート結果＞

小学生以上の参加者全員へ実施。回収率 100%。

	満足度平均（★5 段階評価）
23 日（水）	★5.0
24 日（木）	★4.6



小松菜洗浄体験の様子

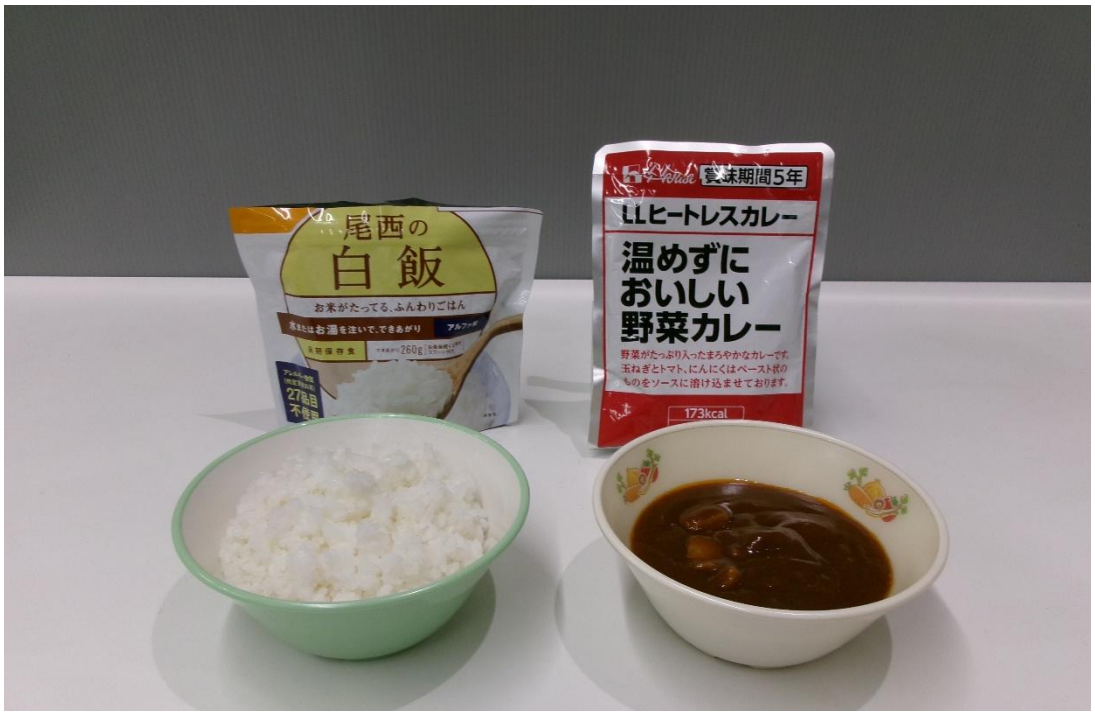
○　学校給食における防災食の提供について

南海トラフ地震等の大規模災害の発生が危惧される中、小中学校の児童生徒への防災教育の一環として、本町で備蓄している防災食を学校給食として提供した。

災害時には通常の給食等の食事ではなく、アルファ米等の防災食を食べることも想定され、また、児童生徒が自分でその調理を行う可能性もあることから事前に体験することで、いざ災害が発生した場合にも適切な対応をとれることを目的とした。

開催日　　９月２２日（月）

給食内容　アルファ米（白米）　防災カレー（湯煎レトルトパウチ）
ハンバーグの玉ねぎソースかけ、ダイコーンサラダ、
デザート、牛乳



防災給食の日に提供されたアルファ米（白米）と防災カレー（湯煎レトルトパウチ）

【自己評価・今後の課題】

◇　学校給食センター「ＡＧＵＭＯＧＵ」５周年記念企画「あぐもぐツアー」は抽選を行わなければならないほど好評な企画であった。未就学児の親子を対象としたアンケート結果からは短時間を希望するという意見が見られた。

◇　防災食の提供についてはアルファ米に児童生徒が自分で水を注いで作り、普段ではできない貴重な体験となった。栄養のバランスを考え、副食も提供した。

◇　アレルギーに関しては卵・乳の除去食を提供、その他のアレルギーに対しても献立表を確認しながら学校・保護者と情報共有している。アレルギー対応委員会については委員の人数・構成などを検討している。

施策名	５　魅力ある生涯学習機会の提供

（担当：社会教育課　社会教育係）

【施策の概要】

町では、令和元年度策定の「阿久比町生涯学習推進計画」に基づき、“学び ふれあい 育む未来”を目標に掲げて生涯学習推進事業を実施している。各年齢層の多様な住民ニーズに応え、魅力ある学習の機会の提供に努めている。

【令和７年度の取組状況】

＜こどものまちあぐいっこＴｏｗｎ２０２５事業＞　437,700 円

本事業は、仮想のまちである「あぐいっこＴｏｗｎ」を子どもたちが自ら考え、作り上げる体験型イベント。遊びや仕事を通して楽しみながら社会の仕組みを学ぶことを目的とする。特に子どもスタッフは計９回のスタッフ会議の中で、異年齢間同士で話し合い準備を進めることで協調性や課題発見力の向上を図っている。令和７年度は９月６日（土）・７日（日）（両日ともに正午から午後３時）に中央公民館本館で実施した。なお、本事業は子育て支援グループむぎ・むぎに運営を委託している。

○　実施状況（令和７年度）

・参加者数（２日間延べ人数・視察の大人を含む）　７７３人（前年度６１７人）
・子どもスタッフ数　５０人（小学４年生から高校１年生）
うち中学生は１８人（前年度２３人）
・委託先団体によると、複数年にわたり参加している子どもたちの中には、大人スタッフが声をかける前に自ら考え行動する姿が多く見られた。下級生への声かけにおいても、単なる指示や提案ではなく、「気づき」を促す関わり方を実践しており、本事業の趣旨を十分に理解している様子がうかがえた。
・新たな取り組みとして、低学年児童の就労体験の場を確保するとともに、あぐいっこＴｏｗｎでの活動が単なる遊びではなく、実社会の仕事と同様の役割を持つことを理解してもらうため、「作業所」を設置した。作業所では、株式会社デンソーから預かったベルマークの仕分け作業や知多市観光協会の PR 資料袋の作成などを実施した。さらに作業所の壁面には「この仕事がどのように社会に役立つか」を示す掲示を行ったところ、児童が一つひとつの作業に丁寧に取り組む姿が見られた。
・高校生になったリピータースタッフが応募してきて参加した。
・当日参加した子どもたちからは「いろんなアルバイトがいっぱいできて楽しかった」「自分で稼いだ AGU（通貨）を使うのが楽しかった」という声があり、この事業を通じて貴重な経験を得たことがうかがえる。



【あいさつするこどものまち「町長」】



【ハローワークで仕事を探す子ども】



【作業所で仕事をする子ども】

＜青少年体験ボランティア・体験活動推進事業＞　6,000 円

町社会教育課を事務局とする青少年体験ボランティアセンターでは、小中学生を対象に町内保育園での手伝い等、町施設を拠点としたボランティア・体験活動の場を提供している。活動を通じて思いやりの心や社会のルールを守る意識を育むことを目的としている。令和７年度は、年間を通じて「あぐいタイボキッズクラブ」等６つの活動の場を提供した。また、小中学生に体験を提供するボランティア講師登録制度を設けている。

○　実施状況（令和７年度）

・参加者数（６つの活動の延べ人数）　４４８人（前年度　４６３人）

活動名	参加者数 （前年度人数）	対象
あぐいタイボキッズクラブ （年５回のボランティア活動）	１５人 （１３人）	小学４年～中学３年生
夏休みボランティア （町内２１施設での活動）	２４０人 （２３７人）	小学１年～中学３年生 ※活動内容によって異なる
夏休み体験講座 ①図書館のお仕事体験（定員制）	６人 （５人）	小学４年～６年生
夏休み体験講座 ②絵手紙体験講座（おじいさん・おばあさんへ絵手紙をつくろう）	１１３人 （１２５人）	小学１年～中学３年生
冬休み体験講座 （干支ワッペンづくり）	１７人 （２２人）	小学３年～中学３年生
こいのぼり作りアドバイザー	２７人（３０人）	中学生
かえっこバザール運営ボランティア	３０人（２８人）	小学３年～中学３年生

・こいのぼりづくりアドバイザーボランティアや、かえっこバザールのイベントでは、昨年度並みの３０人前後の小中学生がボランティアに参加した。

・かえっこバザールのボランティアでは、緊張している小学生に中学生がやさしく声をかけ一緒に活動する様子が印象的だった。

・タイボキッズクラブでの赤い羽根共同募金の手伝いでは、会場内での効果的な周り方や声掛けなどをグループで話し合って活動しており、学校や学年の壁を越えた小中学生のチームワークが感じられた。



【赤い羽根共同募金の手伝いをするタイボキッズクラブ】

・いずれのボランティアも中学３年生の参加者が多く、不安そうにしている小学生に寄り添い緊張をほぐしていたり、全体の状況を見ながら自発的に役割を探して行動している姿から、頼もしさが感じられた。

なお、「親子スポーツ体験」はスポーツ推進委員の指導のもと、モルック・ファミリービーチ（バレーボール）・ボッチャの３種目を実施し、７家族（２１人）の参加をいただいた。参加者の半数近くが一番楽しかった種目としてモルックを挙げていた。令和６年度に比べ参加者が少なかったため、周知方法を増やすなどの工夫が必要だと感じている。

＜板山高根湿地事業＞

令和７年度の機構改革により社会教育係の所管事業となった。貴重なハッチョウトンボ・シラタマホシクサ等の動植物が群生する板山高根湿地の保全・保護を図ることにより、住民に自然環境の大切さを周知している。


【自然観察会の様子】

・板山高根湿地木道整備工事　1,276,000 円

・板山高根湿地自然観察会６月２１日、７月１２日、８月２３日、９月１３日の４回開催
参加者数（４回延べ人数）合計７８人（前年度３１人）

各学校へのチラシ配布やＣＯＣＯＯ（コクー・保護者向け情報通信アプリ）配信により、参加者を募集したことにより大幅に増やすことができた。

参加者のアンケートから「講演会の説明が分かりやすかったため、子どもたちも湿地帯保全の大切さを理解できたと思います」「観察会では珍しい生き物や植物に出会えて、予想以上に興味深く観察することができました」など好評を得られた。

【自己評価・今後の課題】

◇　こどものまちあぐいっこＴｏｗｎは、子どもたちの発想を尊重しサポートする等柔軟な対応が求められ、町職員のみの運営は容易ではない。一方、子育て支援グループは、子どもの主体性を第一とした適切な対応を行うことが可能である。令和７年度においても、子どもたちが互いに協力しやすいように適切にサポートを行うことで、子どもたちの様々な成長につながった。今後も子育て支援グループとの連携が不可欠である。

また、高校や大学へのスタッフ募集の案内を昨年度に引き続き行った結果、高校生５名がスタッフとして参加した。

昨年度当グループより提案があった「あぐいっこＴｏｗｎでの仕事内容が実社会と連動する仕組み」として「作業所の設置」を行った。今後も子どもたちが主体的に学び・成長できる場として、より充実した事業運営を目指していきたい。

◇　青少年体験ボランティア・体験活動推進事業については、活動に参加した子どもたちからは、「ありがとう」や「お疲れ様」と言われたことが嬉しかったという感想が多く見られた。活動の中で感謝の気持ちを伝えられる等の経験により喜びや達成感を得て自己肯定感の向上が図られているのではないか。今後も子どもたちに「参加したい」「参加してよかった」と思ってもらえるような活動の機会を用意していきたい。

◇　板山高根湿地事業について、自然観察会の参加者数を前年度から大幅に増やすことができた一方で、ボランティア体験講座の参加者がいなかったことを受け、広報やホームページでの周知に加え、町内の高校と連携し参加者を募集していくことを検討する。

施策名	6　多様な学習機会の提供

（担当：社会教育課　公民館係）

【施策の概要】

○　公民館の役割「集う」・「学ぶ」・「結ぶ」を担い、また、町民の生きがいづくり、知識教養の向上、健康増進を目的として、各種講座・教室を開講する。

【令和７年度の取組状況】

○　生きがい教室・講座　365,000 円

生きがい教室・講座を２０講座開催した。

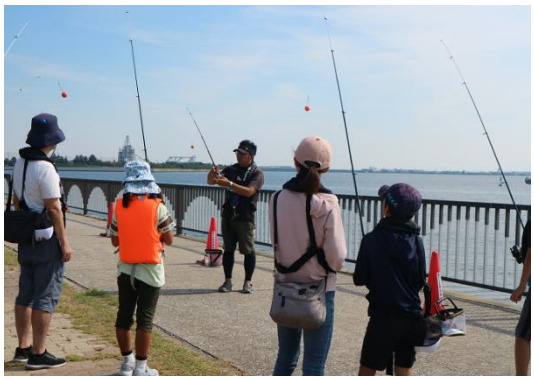
利用者の要望を取り入れ、青少年・親子講座を各１講座増やし、バランスよく開講した。

対　象	番号	名　　称	回数	募集定員	受講者数
青少年	1	初めての手編み講座	5	10 人	7 人
	2	Summer！アート　～初めての油絵体験～	3	15 人	13 人
	3	ｅモータースポーツ講座 （レーシング体験）	1	10 人	9 人
	4	小枝で楽しく！　クラフト講座	1	15 人	14 人
親　子	5	「空飛ぶアグピー」工作講座	1	20 組	16 組
	6	親子で釣り体験講座	1	15 組	9 組
	7	親子で料理教室	2	24 組	24 組
	8	箱ずしとおこしもの作り教室	1	12 組	10 組
	9	手づくりチョコ講座	1	12 組	12 組
一　般	10	お手軽シナモンロール&ココア スノーボールクッキー作り講座	1	12 人	10 人
	11	車好きのためのドライビングレッスン	1	5 人	5 人
	12	川柳講座	7	10 人	2 人
	13	ソフトピラティス	4	30 人	25 人
	14	狂俳教室	4	10 人	2 人
	15	ぬか床造り講座	1	24 人	14 人
	16	男性のための簡単料理教室	5	15 人	7 人
	17	美術講座「美術館へ行ってみよう」	2	18 人	18 人
	18	陶芸教室	2	10 人	17 人

一　般	19	楽しい飾り巻き寿司講座	2	10 人	14 人
	20	そば打ち体験教室	1	10 人	10 人



【ｅモータースポーツ講座】



【親子で釣り体験講座】

○　阿久比町少年少女発明クラブ 補助額　100,000 円

阿久比町少年少女発明クラブを開講し、小学生及び中学生のクラブ員が、木工、金工、自然エネルギーの学習と実習、プログラムの学習、ペットボトルロケット製作、電気工作等を行い、また、あいち少年少女くふう展、技能五輪全国大会の見学等、年間１７回の活動をした。

令和７年度は、令和６年度と同様に３５人を受け入れた。

○　公共ホール音楽活性化事業（おんかつ）

一般社団法人地域創造の支援のもと、地域交流プログラム（アクティビティ）を町内４小学校で実施し、アグピアホールでコンサートを開催した。町民にオペラの生演奏を体感する機会を提供した事業は有意義なものとなった。



【少年少女発明クラブ】



【おんかつ　アクティビティ】

【自己評価・今後の課題】

◇　令和７年度にアグピアホールの移動階段席に経年による不具合が発生し、長期に渡って利用者に不便をかけた。システムは繊細なため、操作手順を誤ると不具合が発生しやすく、また経年による不具合も懸念されるため、作業の全部、または一部を手伝ってくれる部署はあるが、未然に故障等の回避をするには公民館職員の操作が不可欠なので、公民館職員には負担がかかっている。確実な操作をするためにも、公民館職員の増員が必要である。

◇　発明クラブは、土曜日の開催となっており、また事前に行く資材の買い出し、開講前の準備等、職員の負担はかなり大きい。

　当日の会場設営は、公民館職員と㈱デンソーの社員・ＯＢが中心となって手伝ってくれるボランティアであり、その中には遠方から来る方もいるため、これ以上望むことはかなり難しい。この事業でももう一人職員がいると円滑な運営が出来ると思うところである。

　また、活動費は潤沢でないため、商工会が町内企業に多く打診をしてくれた結果、令和６年度よりも多くの協賛金をいただいた。

◇　週休日に講座を開催する場合、日曜日は特に講師・受講者の確保に苦慮するので、土曜日に講座を開講した。

　「空飛ぶアグピー」工作講座などは、親子で一緒に楽しんで、また「車好きのためのドライビングレッスン」はプロが使用するレーシングシミュレーターを体感して、日常と違う時間を提供出来た。

　今後、就労している方・学生も公民館講座に参加しやすくなるよう土曜日に依頼出来る講師の確保と、魅力的な内容の講座の検討に努めたい。

◇　中央公民館本館及びアグピアホールの利用者からは、特に設備面において様々な要望や意見をいただいている中、今年度は本館トイレの大規模な改修を施工する。

　出来る限り利用者の要望に応えていきたいが、全てに応えるのは予算的に難しいため、防災関係を優先して利用者の安全確保に努めた。昨年度、当初の予定になかったが、不具合を確認した本館内の消火ポンプの修繕工事を実施した。

　今後の方針も防災関係を最優先とする。

◇　公民館講座は、幅広い齢層を対象とすることが好ましいと考えるので、令和７年度は、青少年向け、親子講座をそれぞれ１件増やし、若年層の参加を試み、また目新しさを感じていただくよう講座の入れ替えもした。講座の再講、入れ替えについては利用者の声を聴き、楽しく参加し、仲間が出来るような講座を検討していきたい。

施策名	7　魅力ある図書館づくりの推進

（担当：社会教育課　図書館係）

【施策の概要】

○　自発的な学習意欲に応えられるよう蔵書や資料などの充実を図り、誰でも気軽に利用できる施設を目指す。

○　講座やイベントの開催、展示ホールを生涯学習グループの成果発表の場として提供するなど図書館を多くの方に利用していただくための方法を考える。

【令和７年度の取組状況】

○　新しい講座・イベント

＜講座＞

老後の資金準備や見直しの知識、判断力を身につけていただく目的で「マネーセミナー」を開催した。会場内には関連図書を展示し、本を手に取りやすい環境を作った。

＜イベント＞

１月に「本の福袋」を実施。図書館職員が一人ずつテーマを決めて選んだ本が入った福袋を準備。初日で３５袋が貸し出された。

○　保育園・学校との連携

＜保育園連携＞

４月２３日の子ども読書の日にちなみ、保育園幼稚園等の園児を図書館に招待し、館内見学と本の貸出体験を行った。また、読書指導グループぶんぶんの協力により絵本などの読み聞かせを行った。

＜学校連携＞

草木小学校３年生（34 人）と英比小学校２年生（107 人）が、図書館見学と図書館研究（質問）を行った。

○　図書の有効利用

図書リユースフェア（１１月６日から１１月１６日）を行い保育園、小中学校、学童保育等の公共施設へ優先的に無償で譲渡した。また、一般の希望者へも無償で譲渡を行った。（図書リサイクルの内訳　注１参照）

○　青空図書館（阿久比プレイガーデンプロジェクト事業）

春と秋の２回ふれあいの森で開催した。図書・雑誌を約７００冊運び、青空の下での読書をしてもらった。絵本の読み聞かせやクイズ大会で図書館活動のＰＲを行った。春は３１７人（R6 233 人）、秋は２１３人（R6 125 人）の方が来場した。

○　おはなし会

年間を通して毎週土・日曜日と祝日に読書指導グループぶんぶんの協力で、絵本や紙芝居の読み聞かせを行った。また、図書館主催講座「読み聞かせ講座」の受講生に声かけし、読み聞かせボランティアとして参加した。

○　図書館まつり（旧おたのしみ会）

昨年度までは読書指導グループぶんぶんの主催で人形劇やペープサートなどを行ってきたが、令和７年度より創作童話の会「しろやま」にも参加していただき、自作作品の読み聞かせを行った。開催時間も半日から１日へ拡大した。しおりづくりや指人形づくりができるワークショップやスタンプラリーも取り入れ、多くの親子に楽しんでいただけた（参加者 236 人）。また、当日は阿久比中学校の生徒が運営ボランティアとしてイベントを盛り上げた。

【自己評価・今後の課題】

◇　町内外の利用者の方々の読書活動を推進し、生涯学習活動にも貢献できた。

◇　図書館資料については、新刊図書の購入と除籍をバランスよく行い、新しい情報を提供することができた。今後も利用者の要望に耳を傾け、バランスの良い蔵書に心掛けていく。（図書館資料　蔵書増減数　注２参照）

◇　展示ホールは、学校関係をはじめ生涯学習サークル等の活動の成果発表の場として利用されている。今後は展示内容がマンネリ化しないよう新たな生涯学習サークル等にも周知していく。

◇　魅力ある図書館づくりのために講座やイベントの開催にあたっては、幅広い年代層の参加、町民の生涯学習活動や子ども読書活動推進計画の推進に貢献できるよう、新しい講座やイベントを企画していく。また、図書館に足を運んでいただくには講座やイベントのやり方を検討し、通常図書館で開催している講座を他の施設で開催するなど図書館利用が少ない若い世代の方に図書館のＰＲをしていきたい。

◇　図書館利用者について、年々来館者・貸出冊数が減少している。インターネットの普及により手軽に情報が得られるようになったのが原因ではないかと考えている。スマートフォンやパソコンなどで利用できる電子書籍サービスについて検討、調査を進めていく。（図書館利用状況　注３参照）

◇　おはなし会など子ども向けのイベントについては引き続き幼保・小学校の保護者宛てにメール配信して周知していく。また、小中学校の児童生徒に対してイベントに限らず図書館運営のボランティアを募るなど、図書館を知る・関わることで利用者増加につなげてい

きたい。

◇　昨年度に引き続き指定管理制度や業務委託制度の導入を検討・調査を進めていく。

（注１）図書リサイクルの内訳　　（単位：冊）

資料提供数	学　　校	保育園等	個　　人	計	リサイクル率	残　　数
4,805	72	550	2,935	3,557	74.0%	1,248

（注２）図書館資料　蔵書増減数　　（単位：冊）

	令和６年度末蔵書数	購入	寄贈等	除籍	令和７年度末蔵書数
図書資料	113,078	3,249	73	3,657	112,743
視聴覚資料	8,134	112	1	3	8,244

（注３）図書館利用状況

年　度	入館者数	貸出冊数	貸出人数
令和３年度	80,863 人	205,417 冊	40,006 人
令和４年度	81,047 人	201,825 冊	39,861 人
令和５年度	83,313 人	203,074 冊	40,665 人
令和６年度	78,770 人	190,658 冊	41,567 人
令和７年度	74,929 人	183,041 冊	41,888 人





小学生図書館見学

施策名	8　スポーツ施設及び設備の整備等の推進

（担当：社会教育課　スポーツ係）

【施策の概要】

○　「阿久比スポーツ村、町内各グランド、丸山武道場、白沢区民館、ふれあいの森などのスポーツ施設の整備に努め、全ての町民が安全にスポーツに親しめる環境整備を推進し、利用促進を積極的に図る。

【令和７年度の取組状況】

○　スポーツ村交流センター室内プールを温水化し、令和７年４月より年間を通し利用できる施設としてリニューアルオープンした。

施設の改修では、令和８年アジア競技大会のサッカー競技の練習会場として使用される陸上競技場のトラック改修及び天然芝生化改設工事に着手した。

また、阿久比スポーツ村一帯の新たな利活用方策及び既存施設の再整備を検討し、利用者数・交流人口増加、地域経済の振興、子育て支援、町民や多様 な関係者の協創・協働活動の推進等の地域創生を目標とした「阿久比スポーツ村整備基本構想」の作成に着手した。令和７年度には、現状を分析するとともに、住民及び利用者の意向を把握するために、アンケート調査及び対話会を実施した。

○　阿久比スポーツ村整備事業（主なもの）

1　交流センター更衣室シャワー整備工事設計委託　4,400,000 円

交流センター更衣室へのシャワー整備工事に係る設計委託

2　顧問委託　1,271,600 円

スポーツ村の整備への助言等を行う顧問を委託

3　スポーツ村整備基本構想策定業務委託料　14,905,000 円

スポーツ村整備基本構想策定に係る業務委託

4　陸上競技場トラック改修・天然芝生化改設工事監理委託料　2,580,000 円

陸上競技場トラック改修・天然芝生化改設工事の施工監理

5　野球場防球ネット改修工事設計委託料　6,492,200 円

知多半島道路沿いに設置してある防球ネット改修工事に係る工事委託

6　陸上競技場トラック改修・天然芝生化改設工事　163,090,000 円

陸上競技場トラック改修と天然芝生化改設の工事（令和７年度分）

7　交流センター樹木伐採撤去工事　1,438,800 円
樹木伐採工事

8　スポーツ村駐車場看板設置工事　1,243,000 円
スポーツ村駐車場への注意看板設置工事

9　交流センター冷温水器改修工事　2,090,000 円
交流センター全館空調の冷温水器改修工事

10　野球場グラウンド整備工事　1,287,000 円
スポーツ村野球場内グラウンドの内野整備工事

【自己評価・今後の課題】

◇　今後の改修計画について

どの施設も経年劣化が目立ち、抜本的な改修工事の時期を迎えている。利用者が安全に利用できるよう、個別施設計画及びスポーツ村再整備計画に基づき、財政負担軽減策や費用の平準化を研究し計画的に施設修繕を実施する必要がある。

◇　今後のスポーツ村の活用・整備について

スポーツ村再整備計画では、スポーツ村施設は今後５年間、施設の経年劣化による老朽化の改修と利用者のニーズを受けて計画する方針とした。令和７年度・８年度に策定する「阿久比スポーツ村整備基本構想」を基に、スポーツ村の利活用方策及び既存施設の再整備について検討し、将来にわたるスポーツ村の在り方を見出す必要がある。

施策名	9　多様なスポーツ及びイベント機会の提供

（担当：社会教育課　スポーツ係）

【施策の概要】

○　阿久比町生涯スポーツ推進計画に基づき、「住民が健康で心豊かに、生きがいを持って生活が送られるよう、それぞれのライフスタイルに応じたスポーツ活動が推進され、スポーツを通じたつながりや人や地域の活力を生み出しているまち」の実現のため、町内スポーツ施設の適正な維持管理に努め、教室や大会などを開催し活動の機会提供に努める。

【令和７年度の取組状況】

○　ニュースポーツ体験

誰もが、気軽に楽しめるニュースポーツ（ミニテニス、モルック、キンボール、フロッカー等）の体験や紹介を通して、普段の生活の中にスポーツを取り入れるきかっけを提供する。

期　日　令和７年５月１１日
場　所　交流センター多目的体育室
参加者　３０人（中学生以上）

○　体力テスト

スポーツ庁からの依頼に基づき、町民の体力・運動能力の現状を把握するため毎年、成年及び高齢者を対象に実施。テスト項目は、成年は握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、急歩、立ち幅とび、高齢者の方には握力、上体起こし、長座体前屈、開眼片足立ち、１０m障害物歩行、６分間歩行。

期　日　令和７年５月１０日
場　所　交流センター多目的体育室
参加者　２８人（成年１６人、高齢者１２人）

○　ミニテニス教室

誰もが、気軽に楽しめるニュースポーツの「ミニテニス」教室を開催。

期　日　令和７年５月～９月（全５回）
場　所　交流センター多目的体育室
参加者　１７人（中学生以上）

○　ジュニアスポーツ教室

スポーツの楽しさを学びながら体力づくりや友達づくりをねらいとして、小学生（教室によって対象学年は異なる）を対象にジュニアスポーツ教室を開催。

教室名	期日	回数	場所	参加者
バドミントン	5月～2月	10回	英比小学校体育館	40人
ニュースポーツ	5月～2月	10回	英比小学校体育館	45人
陸上	5月～3月	10回	スポーツ村陸上競技場	53人
剣道	6月、7月	17回	丸山公園武道場	20人
ソフトテニス	6月	7回	白沢テニスコート	13人
卓球	7月、8月	5回	丸山公園武道場	16人

○　第７７回　阿久比スポーツフェスティバルレクリエーション大会

町民が一堂につどい、運動を通じて親睦を図ることを目的に、スポーツの普及と体力の増進をねらいとして開催。地区対抗の得点種目もあり、地区住民の親睦と結束を高める機会となっている。今大会より阿久比中学校の生徒がボランティアとして参加した。中学生が活発に動く姿は大会の盛り上がりに繋がった。

期　日　令和７年１０月１２日

場　所　阿久比中学校運動場

参加者　町内在住・在勤・在学者、中学生ボランティア（前日６人、当日２７人）

○　第１８回　愛知県市町村対抗駅伝大会（愛知駅伝）

２００５年開催の「愛知万博」メモリアルイベントとして、愛知県内５４全市町村チームが市の部、町村の部に分かれ９区間３０．２㎞のコースを競い、阿久比町チームは、町村の部で４連覇を達成した。

期　日　令和７年１２月６日

場　所　愛・地球博記念公園



○　アスリートスポーツ教室

アスリートスポーツ教室として、令和６年度に続き小学生を対象に野球とサッカーの教室を開催した。一流のプレイヤーの技術を身近に感じることのできる貴重な機会となり子どもたちの元気な笑顔をたくさん見ることができた。

また、令和７年度は、全年齢を対象に陸上教室も開催し、連覇中の愛知駅伝への機運醸成にも繋がった。





競技	講師	参加人数	開催日	開催場所
野球	ジェイプロジェクト 硬式野球部	84 人 阿久比　66 人 東浦町　18 人	R8.2.22	スポーツ村 野球場
サッカー	FC 刈谷	47 人 阿久比　23 人 東浦町　24 人	R8.2.7	メディアスひがしうら 第一グラウンド
陸上	デンソーフリート セローズ	50 人	R7.12.2	阿久比中学校体育館

○　各スポーツ施設の利用状況

スポーツ村利用状況

施　設　名	項目	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
陸上競技場（団体）	件数	336	300	32
陸上競技場（個人）	人数	2,171	1,371	279
野球場	件数	262	264	260
室内練習場	件数	244	307	239
交流センター(団体)	件数	700	831	892
交流センター(個人)	人数	533	602	705
トレーニング室	人数	4,518	4,975	6,460
交流センタープール	人数	－	2,560	4,267

グランド利用状況

施　設　名		項目	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
白沢 グランド	グランド	件数	310	324	365
	テニスコート	件数	1,238	1,507	1,612
	多目的広場	件数	20	50	13
板山グランド		件数	229	200	234
草木グランド		件数	320	328	381

丸山公園武道場利用状況

施　設　名	項目	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
武道場	件数	983	950	959

白沢区民館利用状況

施　設　名	項目	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
体育室	件数	623	586	576
大会議室	件数	200	182	194
会議室	件数	154	146	118
卓球場	件数	285	282	304

ふれあいの森利用状況

施　設　名	項目	令和５年度	令和６年度	令和７年度
パターゴルフ	人数	1,558	1,340	1,347
デイキャンプ	件数	61	84	98
体育室	件数	1,015	1,128	1,123
入園者数	人数	60,745	57,925	65,465

○　ふれあいの森体育館一般開放
毎月第３日曜日（家庭の日）に、体育館を町民の憩いの場として無料で開放した。
利用者数　６５９人

【自己評価・今後の課題】

◇　ニュースポーツの機会を提供するため、１０月より月に１度（主に第３日曜日）モルック体験デーを開催した。雨で中止となることも多かったが、遠方より訪れる人もおり、一定の効果が見られた。イベントが定着しつつある中のため、令和８年度も継続して実施していく。

◇　交流センター室内プールは、南部小学校の授業でも利用することができた。無料開放していたころと比べると、利用者は伸び悩んでおり、特に冬場や平日の利用者が少ない。利用者の増加を目指し、フィットネスグッズの導入や受付方法の見直しを行った。引き続きより良い施設となるよう検討を重ねていく必要がある。

◇　スポーツ村各施設を、１２月開催「阿久比町灯籠まつり」、３月開催「あぐい結びの市『よりみち-yorimichi-春』」のイベント会場として提供した。
灯籠まつりはクラブハウスでワークショップの実施、野球場において竹灯籠・灯籠の設置、音楽ライブの開催、第１駐車場ではキッチンカーによる飲食スペースが設けられ、６，１５０人が訪れ盛り上がった。あぐい結びの市「よりみち-yorimichi-春」には１，８００人が訪れ、キッチンカーや模擬店で楽しんだ。社会教育課では、ニュースポーツの普及のため、モルックとピックルボールの体験コーナーを設置した。スポーツを普段実施しない人へのスポーツ村の認知度向上に繋がった。



ピックルボール体験

Ⅲ　学識経験者の意見

教育委員会事務評価委員会報告書

令和８年度　教育委員会事務評価委員会報告書

阿久比町教育委員会
　教育長　　竹　内　　淳　　殿

阿久比町教育委員会事務評価委員会は、令和７年度の阿久比町教育委員会事務について、令和８年６月２５日、７月９日、７月２９日と３回の委員会を開催し、点検・評価を行った。
次のとおり、評価結果を報告する。

令和８年８月４日

阿久比町教育委員会事務評価委員会
　委員長　　水　谷　正　治（元小学校長）
　委　員　　田　中　悦　夫（元小学校長）
　委　員　　鈴　村　みえ子（令和８年度阿久比町更生保護女性会会長）

評価結果

施策名	１　幼保小中一貫教育の推進
○　まずは、２０年間も継続して研究と成果を生み出されていることに敬意を表したい。そして、時間の経過とともに学校を取り巻く問題が変化していることを踏まえて、部会を再編して取り組んでいることは評価できる。 ○　体力向上推進部で取り組まれた「体育授業の変革」では、教える側も難しいとされる鉄棒において「もっとやりたい」という声が児童から挙がったことは素晴らしい成果である。 ○　外国語（英語）教育の充実は現代において必須の課題である。「外国語活動部」の到達目標としている英語検定３級の取得について数値での把握をお願いしたい。 ○　「幼保小中接続部」では、教職員が様々な子どもの支援方法を共有しながら１５歳まで見届けていただきたい。	

施策名	２　いじめ・不登校対策の充実
○　いじめ・不登校の発生件数が高止まり状態にあることは懸念材料であるが、それだけ発見をして対応した件数でもあるということで、闇に隠されたままであることを思えば成果であると考えられる。 ○　不登校児童生徒に対して、学校と相談員・カウンセラー・ソーシャルワーカーの方々で情報共有を図りながら適切な支援・対応をされていることは評価できる。今後もそれぞれの児童生徒に寄り添った支援をお願いしたい。 ○　中学校の校内教育支援センター「オアシス」に支援員が配置され、生徒との関係づくりが良好となり不登校数の減少につながったことは評価できる。今後も各種支援員の人材確保に向けて財政面での理解をお願いしたい。 ○　現在の小中学校は経験年数の少ない担任が多数を占めているため、担任と児童生徒との関係づくりにも支援をお願いしたい。	

施策名	３　学校施設及び設備の整備・改修等の推進
○　町内の小中学校の空調設備の設置において、普通教室・特別教室への設置が完了し、体育館についても令和８年度中に完了する見込みであることは高く評価できる。 ○　学校プールの老朽化対策として、スポーツ村交流センター内プール活用を進めるのが適策であると思われる。温水プールのため、夏場に集中させず、各校の体育授業のカリキュラムを調整して年間で活用することが可能である。 ○　給食配膳室の空調機器の設置は、猛暑への対策として、また衛生面からも早急にお願いしたい。 ○　GIGA スクール構想について、児童生徒用タブレット端末の導入が予定されているが、学校内での使用に加え持ち帰り学習の推進のためにも、必要な周辺機器やタブレットに取り込むツール等の予算の計上もお願いしたい。	
施策名	**４　安心安全な学校給食センター運営**
○　限られた財源の中で、安全安心で栄養バランスのとれたおいしい給食の提供をこれからもお願いしたい。 ○　「あぐもぐツアー」は参加希望者が多くて抽選を行わなくてはならないほど好評だったとのこと。学校給食を知ってもらうよい機会であるため、規模を縮小したり、参加者枠を限定したりして今後も実施を検討していただきたい。また、防災食の提供についても可能であれば実施を検討していただきたい。 ○　アレルギー対応除去食提供では、毎月の保護者との面談等により年間５０回の提供ができた。大変ではあるが引き続きお願いしたい。	
施策名	**５　魅力ある生涯学習機会の提供**
○　「こどものまちあぐいっこ Town２０２５」では参加者が前年度に比べて１５０名以上増加し、年々盛況となっていることは高く評価できる。単なる遊びではなく、実社会の仕事を学ぶ貴重な体験の場となっているため、今後も継続をお願いしたい。 ○　児童生徒がボランティアに参加したことで、達成感を得て自己肯定感の向上につながるよい機会になっていることは高く評価できる。今後も主体的に活動できる場を設けていただきたい。 ○　「板山高根湿地事業」が COCOO（コクー）配信により参加者が増えたため、今後も通信機器の有効活用をお願いしたい。	

施策名	６　多様な学習機会の提供

○　アグピアホールでの移動階段席の設置・撤去に関する課題は令和５年度（令和４年度実施事務事業）から挙げられている。４年間経っても同じ課題が改善されることなくずっと挙げられ続けているため、職員負担が改善するよう有効な手立てを考えていただきたい。

○　「生きがい教室・講座」の開設について、内容（名称）的に楽しそうで参加したいと思わせるよい企画を準備されていると評価できる。親子を対象とした講座では前年度２７組の参加者が、７１組と大幅に増加している。しかし、一般対象の講座は１３講座から１１講座と２講座減り、参加者は１６２人から１２４人までに減少している。講師や企画の選定は難しいと思われるが、多くの人に公民館に足を運んでいただけるような魅力のある講座の開設をお願いしたい。

○　発明クラブで毎年多くのクラブ員が様々な活動ができるのは、地元企業の協力のおかげである。しかし、指導者のボランティアによって支えられているのは心苦しい。財政面での支援をお願いしたい。

施策名	７　魅力ある図書館づくりの推進

○　青空図書館と他のイベントを合わせたり「マネーセミナー」を企画したりして図書館の利用促進につながる新たな講座・イベントを考案し、取り組む姿勢は高く評価できる。

○　図書館の利用状況では入館者数が微減しているが、貸出人数は微増している。新刊図書の選定などに注力した結果であると考えられる。今後も利用者の要望に耳を傾けていただきたい。

○　図書館に足を運ぶのが少し困難な高齢者や、乳幼児を抱えたお母さん方にも気軽に図書が触れられるように、地区の公民館や子育て支援施設などに分館方式で図書を置くことや、来館しなくても読めるように電子書籍サービスの導入を検討していただきたい。

施策名	８　スポーツ施設及び設備の整備等の推進

○　「阿久比スポーツ村」には２億円近い多額の資金が投入されている。その内、アジア競技大会に関連して陸上競技場のトラック改修・天然芝生化改設工事関係は令和７年度だけでも１億６千万円以上が費やされている。アジア競技大会後の費用対効果についてしっかりと検討していただき、町民がスポーツに親しめる機会の提供を期待している。

○　「阿久比スポーツ村整備基本構想」が町民や利用者の意向を反映したものになり、町民や利用者から理解され、支持されることを願っている。

施策名	９　多様なスポーツ及びイベント機会の提供

○　町民のスポーツ活動の推進のために、各種の体験活動や教室を開催することができたことは評価できる。

○　交流センター多目的体育室を会場にした幾つかの取り組みが紹介されているが、今後もいろいろな企画を実施して、多くの町民の方にスポーツ村に足を運んでもらえるよう周知に努めていただきたい。

○　愛知駅伝町村の部４連覇は素晴らしいことである。他の自治体にはない年間を通した努力のたまものである。

○　中学校部活動の地域展開がスタートするが、大きな課題は指導者である。他市町とは異なり多くの種目で教員が指導者として登録していると聞いているが、勝利至上ではなく生徒同士の関係づくりを土台とした「阿久比スタイル」での運営を期待している。